

2022年3月期第1四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役 専務執行役員 CFO

2021年7月29日



東証第1部：6754
<https://www.anritsu.com>

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目次

1. 事業概要
2. 2022年3月期第1四半期 連結決算概要
3. 2022年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

(ノート部記載なし)

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ▶ モバイル市場：5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：基地局建設保守、電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心



- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機

その他



- ▶ 環境計測
- ▶ センシング & デバイス

(セグメント別売上比率)

2021年3月期 実績 (連結) : 1,059億円

通信計測 71%			PQA 20%	その他 9%
モバイル 59%	ネットワーク・インフラ 25%	エレクトロニクス 16%		

2022年3月期1Q 実績 (連結) : 238億円

通信計測 71%			PQA 21%	その他 8%
モバイル 56%	ネットワーク・インフラ 25%	エレクトロニクス 19%		

(通信計測事業 地域別売上比率)

2021年3月期 実績

日本 18%	アジア他 47%	米州 23%	EMEA 12%
--------	----------	--------	----------

2022年3月期1Q 実績

日本 16%	アジア他 46%	米州 23%	EMEA 15%
--------	----------	--------	----------

通信計測事業：IT&M事業 PQA：Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比減収減益も通期予想に対する受注進捗は計画通り

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	290	281	△ 9	△3%
売上高	257	238	△ 19	△7%
営業利益	51	31	△ 20	△40%
税引前利益	51	31	△ 20	△40%
当期利益	35	21	△ 14	△41%
当期包括利益	37	23	△ 14	△37%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入 (前年同期比増減額を除く)

グループ全体の受注高は前年同期比3%減の281億円、売上高は前年同期比7%減の238億円となりました。営業利益は前年同期比40%減の31億円、当期利益は前年同期比41%減の21億円となりました。

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測：5G開発需要は堅調に推移。一方で、半導体不足が売上に影響

▶ PQA：新型コロナウイルス感染症の状況が改善している地域での売上が回復

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	193	168	△ 25	△ 13%
	営業利益	49	29	△ 20	△ 42%
PQA	売上高	44	51	7	16%
	営業利益	1	4	3	173%
その他	売上高	20	19	△ 1	△ 6%
	営業利益	2	0	△ 2	△ 75%
調整額	営業利益	△ 2	△ 2	0	-
合計	売上高	257	238	△ 19	△ 7%
	営業利益	51	31	△ 20	△ 40%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入(前年同期比増減額を除く)

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

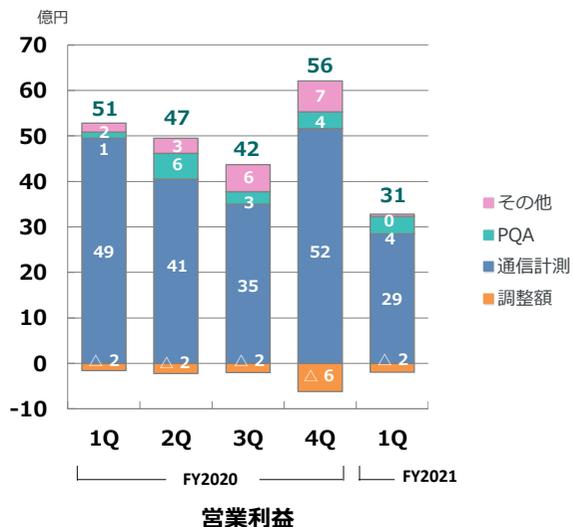
通信計測事業：旧T&M事業 PQA：Products Quality Assurance

通信計測事業においては、5Gの開発需要は堅調に推移しました。一方で、世界的な半導体不足が売上に影響し、売上高は前年同期比13%減の168億円、営業利益は42%減の29億円(営業利益率17.0%)となりました。

PQA事業は、新型コロナウイルス感染症の感染状況が改善している地域での売上が回復してきたため、売上高は前年同期比16%増の51億円、営業利益は前年同期比2.7倍の4億円(営業利益率7.4%)となりました。

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 1Q(4-6月)営業利益率：連結 13%，通信計測 17%，PQA 7%



(注) 値はそれぞれで四捨五入

第1四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結	31億円 (営業利益率：13.0%)
通信計測	29億円 (営業利益率：17.0%)
PQA	4億円 (営業利益率：7.4%)

2-4. 事業別営業概況

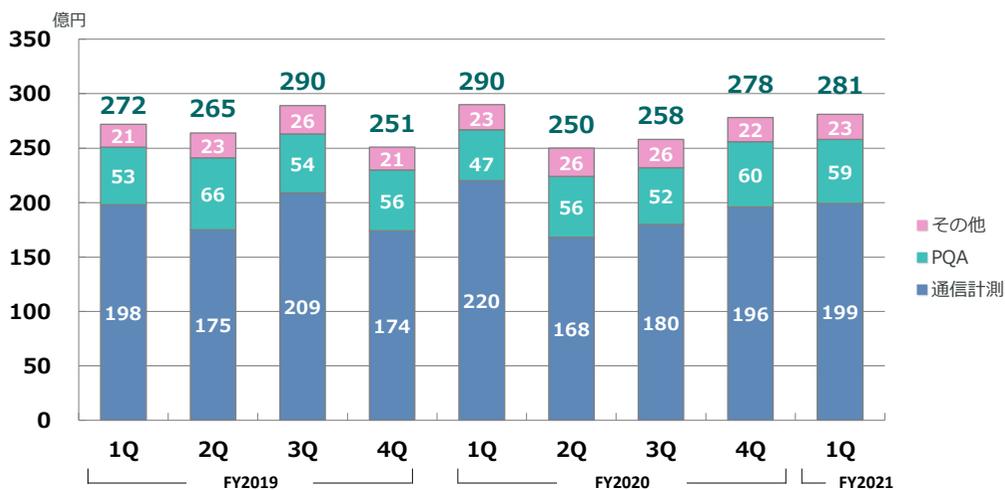
セグメント 2022年3月期（4月-6月）の状況	
➡ 通信計測：5G商用化スケジュールおよびデータセンター高速化が順調に進展	
モバイル	5G開発の需要が順調に推移
ネットワーク インフラ	データセンター等への投資が順調に推移
アジア他・日本	5G商用化に向けた投資は堅調
アメリカ	今年後半からのSub6GHz（Cバンド）の基地局敷設による需要回復に期待
➡ PQA：アジアやアメリカ等、新型コロナウイルス感染症の状況が改善している地域の需要が回復	

(ノート部記載なし)

2-5. 受注高推移

▶ 通信計測：前年同期比10%減、前四半期比2%増

▶ PQA：前年同期比 25%増



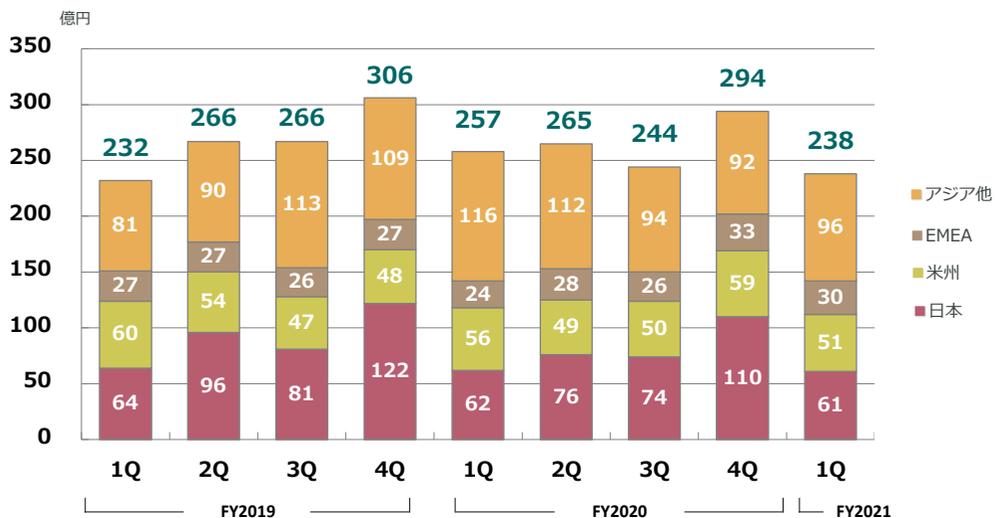
(注) 値はそれぞれで四捨五入

通信計測事業の第1四半期受注高は、第4四半期の196億円から199億円となりました。PQA事業の第1四半期受注高は、アジアやアメリカ等、新型コロナウイルス感染症の状況が改善している地域での需要が回復してきたため、前年同期比25%増の59億円となりました。

なお、受注残高はグループ全体で272億円（前年同期比8%増）、通信計測事業では192億円（同6%増）、PQA事業では60億円（同16%増）でした。

2-6. 地域別売上高推移

▶ アジアの5G関連の需要は引き続き堅調



(注) 値はそれぞれで四捨五入

(ノート部記載なし)

2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率33.2%

FY2021 1Q

- ①営業CF： 79億円
- ②投資CF： △13億円
- ③財務CF： △36億円

フリーキャッシュフロー

(①+②)： 66億円

現金同等物期末残高

531億円

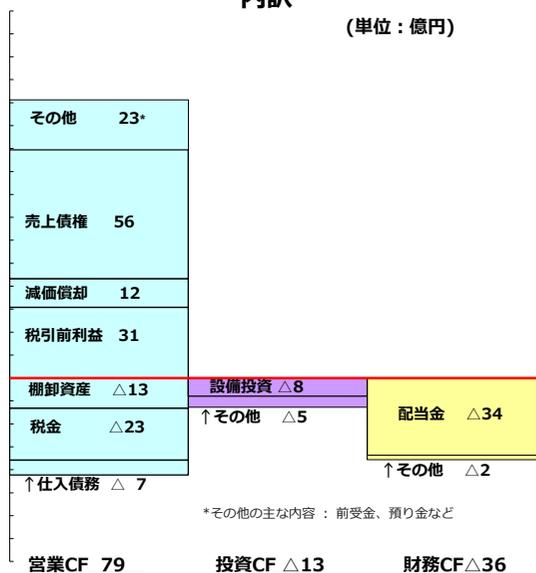
有利子負債高

58億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位：億円)



営業キャッシュフローは、79億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、13億円の支出でした。

その結果、フリー・キャッシュフローは66億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは、36億円の資金支出となりました。主なものは、配当金の支払い34億円（期末配当分1株24.5円）です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より32億円増加の531億円となりました。

3. 2022年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 4月27日の公表値のとおり

(単位：億円)

		2021/3期	2022/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,059	1,140	81	8%
営業利益		197	205	8	4%
税引前利益		198	205	7	3%
当期利益		161	162	1	0%
通信計測	売上高	748	820	72	10%
	営業利益	177	185	8	4%
PQA	売上高	214	230	16	7%
	営業利益	13	18	5	34%
その他	売上高	97	90	△7	△7%
	営業利益	18	12	△6	△33%
調整額	営業利益	△12	△10	2	-

(参考) FY20 為替レート : 1米ドル106円、1ユーロ=123円
FY21 想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=125円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

2022年3月期の通期業績の見通しは4月27日の公表値から変更はありません。

新型コロナウイルスによる経済活動への影響は地域ごとにばらつきがあり、当社事業への影響も地域によって異なります。当見通しは、各地域において感染状況が1年間継続することを前提に策定しております。今後、前提となる状況に変化が生じ、開示すべき重大な影響が見込まれる場合には速やかに公表します。

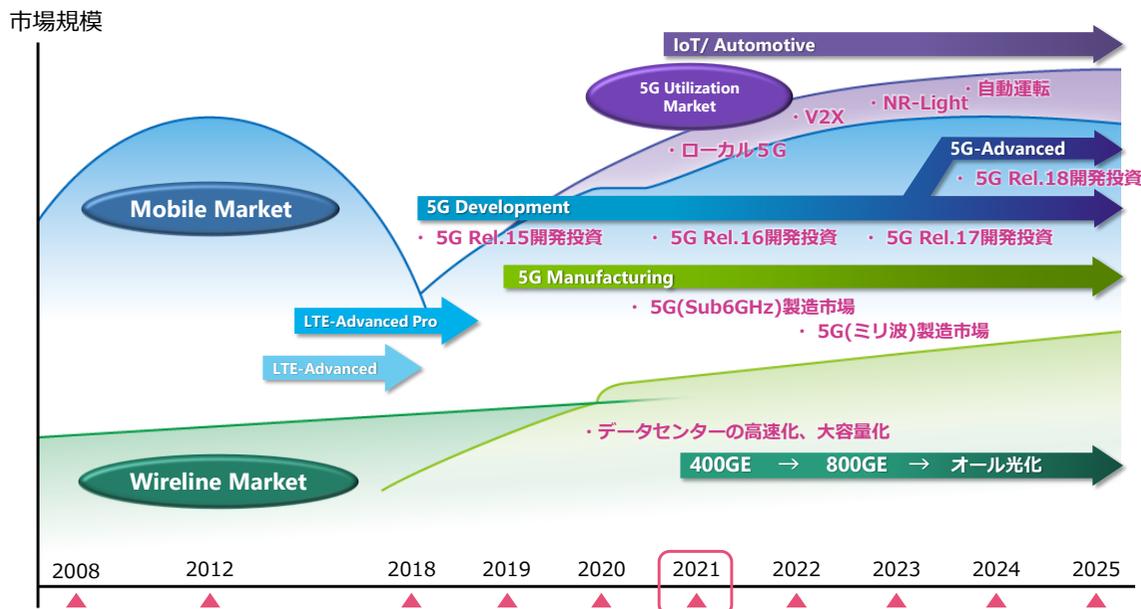
4.当社の取り組みについて

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

(ノート部記載なし)

4-1. 通信計測事業：計測市場トレンドと事業機会



モバイル計測市場は、世界各国の5Gサービスの拡充により、今後も関連需要が拡大していくことが見込まれます。

5Gでは、Sub6GHzとミリ波の2つの周波数帯が使われます。モバイル計測市場のうち、スマートフォン計測市場としては、2018年に韓国や中国でサービスが開始されたSub6GHzの市場が立ち上がりました。一方、ミリ波は、2018年にアメリカでサービスが始まりましたが、ミリ波特有の「障害物に遮られやすい」、「遠くに届きにくい」等の特性から、サービスのエリア展開が遅れています。ミリ波の移動体での利用に関しては更なる技術の成熟が必要であり、スタジアム内等での限定された地域や場所でのサービスから、徐々に広範囲のサービスに移行していくと考えております。そのため、スマートフォン計測市場の需要は、Sub6GHz関連は2023年頃にピークとなり、ミリ波に関してはその1年後ぐらいに需要のピークが来るとみております。また、5G利活用の領域として、3GPPリリース16の標準化により、IoT/Automotive/ローカル5Gなどの新たな市場が拡大していくことが期待されます。

5Gの規格動向としては、2028年頃の6G規格化に向けて、リリース18以降の5G-Advancedへと展開していく見込みです。

4-2.世界の5G状況

欧州

Sub6 : ヨーロッパの5Gカバレッジが上向き。
2021年3月末でEU27か国中24か国で5G
サービス開始

ミリ波 : イタリア、フィンランドなどで周波数の
オークションが完了

韓国

5G加入者は1,584万人(2021年5月末)

Sub6 : 基地局は11.5万局設置済。人口カバー率90%超

ミリ波 : 2020年サービス開始予定が延期、開始時期未定

US

5G加入者は1,996万人(2020年12月末)

Sub6 : ベライゾンがCバンドを使うサービスを2022年
1Qに開始。2022年3月までに1億の人口を
カバーする計画

ミリ波 : ベライゾンは2021年末までに1.4万サイトを
3万サイトまで拡張

中国

5G加入者は4億5,000万人(2021年5月末)

Sub6 : 基地局は20年末77万局設置済、
2021年中に60万局の増設を計画

ミリ波 : 北京オリンピック会場でトライアルを実施

日本

5G加入者は1,419万人(2021年3月末)

Sub6 : 全国47都道府県の主要都市をカバレッジ
ドコモは2021年3月末までに基地局累計2万局
設置(LTEは25万局設置済み)

ミリ波 : キャリア4社が2020年後半からサービス開始済

東南アジア/オセアニア

Sub6 : 2020年中に豪州、タイ、フィリピン等で
5Gサービス開始

ミリ波 : 豪州では2021年5月にサービスを開始

* 出所 : 一般公開情報を参考に当社作成
2021年7月時点

(ノート部記載なし)

4-3. ローカル5Gに関する共同出資会社「AK Radio Design」 営業開始

提供するサービス

シミュレーション解析サービス

- ・ローカル5Gのエリア設計に必要な電波伝搬シミュレーション
- ・干渉調整、エリア検証・設計のコンサルティング

測定サービス

- ・ローカル5G導入現場における、干渉評価、エリア実測、基地局性能評価、ネットワーク評価
- ・基地局設備や端末のベンチマーク支援

ラボ見学・利用サービス

- ・Anritsu 5G LABを活用し、ローカル5Gの活用方法や品質保証手法の理解を促進
- ・実際のローカル5G環境を利用した実証実験の環境と機会を提供

調印式



アンリツ株式会社
社長 濱田宏一

株式会社構造計画研究所
取締役会長 服部正太

(ノート部記載なし)

4-4. Anritsu 5G LABの紹介



5Gミリ波、LTE基地局



5G測定器のラインナップ



4K高精細映像による
5GとWi-Fiとの比較



5G基地局装置



ローカル5Gの電波測定

ANRITSU 5G LABには実際にローカル5Gに使用される基地局や通信端末が用意されており、ローカル5Gの電波状況や、データ速度や遅延を評価する各種の測定器群による様々な実証実験を行うことが可能です。

4K高精細映像の伝送による5GとWi-Fiの比較など、ローカル5Gの特徴をわかりやすく理解できる環境の提供、また、電波の評価だけではなく、通信トラフィックを可視化するソリューションも提案しており、ネットワークの運用状況を総合的に分析し、適切な対策を行うことで、ローカル5Gの安定した運用が可能となります。

アンリツは、今後も顧客やパートナーとの協力を通してローカル5Gの普及や新しいユースケースの創出に貢献してまいります。

The Anritsu logo is displayed in a bold, teal font. Below it, the tagline "Advancing beyond" is written in a smaller, black, sans-serif font. The logo and tagline are positioned on the left side of a white rectangular area. To the right of the text, there is a decorative graphic consisting of several parallel, curved lines in shades of green and white, which curve upwards and then level off. Below the white area, there is a horizontal gradient bar that transitions from light gray on the left to white on the right.

Anritsu
Advancing beyond

(ノート部記載なし)